

らう体制も整えた。区によると、障害者専用の施設以外で定期的に公開の時間帯を設けるのは、区内でも初めての取り組みとい

う。全22競技が区内のどこの施設でできるか、一競技ごとにその詳細を一覧にして区のホームページ上で公表している。（濱本高佑）

養護施設の子ども

里山開拓で生き生き

表彰
ライフ
ドワード
グッド
アワード

「環境と社会によい暮らし」に関する優れた取り組みを表彰する「第8回グッドライフアワード」（環境省主催）の表彰式が5日、オンラインで開かれた。

最優秀賞に「NPO法人東京里山開拓団」、NPO・任意団体部門賞に「**さんさん山城**」（社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協

会）が選ばれた。

東京里山開拓団は、児童養護施設の子どもが山林でツリーハウスや料理を作ったりすることで自ら故郷をつくり上げていくボランティア活動をしている。過去9年間で三つの児童養護施設から延べ約400人が参加した。堀崎茂代表は「山林には人の心を開く力があ

り、児童養護施設の子どもがそのままの自分でいられる場所になる。環境保全と児童福祉の一石二鳥の取り組み」と話した。参加する児童養護施設の一つ、救世軍機恵子寮の高田祐介施設長は「施設生活で窮屈な思いをしている子どもが生き生きできる場所」とした。

さんさん山城は、開設10年目で33人の障害者が働く。宇治茶、京都えびいも、京都田辺なすなど地域特産にこだわった農業の生産、加工、販売（6次産業化）に取り組んでいる。農家が捨てる部位を天日干しにし商品化して廃棄ゼロにしたり、児童養護施設でお菓子作りの体験の場を提供したりしている。新免修施設長は「障害者でもできるという表現は嫌い。障害者事業所だからこそ農家ができる」と話した。



表彰式でプレゼンする堀崎代表（左）

今回のアワードには193件の応募があり、ほかに優秀賞3件、NPO・任意団体部門賞2件、自治体部門賞1件、学校部門賞1件、地域コミュニティ部門賞1件なども選ばれた。（榎戸新）